

出題のねらい・解答例 〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学短期大学部〔幼児保育学科〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

今年の課題文は幼児保育学科における特色を中心として、子どもの中にある「悩みや葛藤」と発達についての題材とした。子どもたちなりに悩みや葛藤を感じたり、それにより部屋からとび出してしまうたりする行動を子どもの視点と発達過程から書かれたものであり、本文の内容を踏まえて自らの考えを論理的にまとめ表現する力を見ることを目的とした。

〈各設問の講評〉

設問一は、課題文中の文脈に即して、正しい漢字を書き取る問題である。正答は

- ①葛藤
- ②隠
- ③対比
- ④過敏
- ⑤到底

①葛⑤到底の文字に誤答が見られた。

設問二は、本文中の文章を用いて解答する問題である。正答は

- 自分のクラスの活動が、自分にはトウテイ（到底）できないことと感じた。
- 小さい子どもたちとあそびたいと思った。
- おにいちゃん、おねえちゃんとして関わりたいと思った。

本文中にある「理由」直前に書かれている、今回の文章中の子どもの気持ちである。子どもが二分的評価を意識して様々な感情を抱き、行動する。その理由は場面に応じ様々であるが、本文中の文章を用いて解答するという、基本的な文章理解、文章校正理解を問う問題である。三つの例と出題することで、本文中にある「理由」について正答へとつながりやすくなると考えた。しかし、本文中の文章を用いていない解答が散見された。

設問三は、課題文を踏まえ自らの考えをまとめ記述する問題である。自分の考えを論理的にまとめ、400字以内で他者に分かりやすく表現できているかを中心に評価した。多くの受験者は制限字数に過不足なく自身の考えを記述できていた。ほとんどの解答は、課題文を踏まえた内容であり、解答者自身の経験や見解が述べられていた。但し、一部、字数不足や本文の引用が長すぎるもの、また、段落がなくまとまりに欠ける解答も見受けられた。「課題分のまとめ」、「自分の考え」、「根拠の整合性」、「まとめ」、「表現スキル」などを採点の視点とした。